

of this study.

* * * *

東京大学理学部附属植物園の岩槻邦男教授のご厚意により、外国の腊葉庫よりツレサギソウ属の標本を借用し検討を行っている。2種の新種を見いだしたので報告した。*Platanthera bhutanica* はハンナガヤマサギソウ群やジンバイソウと共通した花の構造を持つが、ストロン状になる地下器官・葉縁が波打ち葉柄のあるだ円形の葉などで特徴づけられる。*Platanthera handel-mazzettii* はヒマラヤの *P. juncea* に近縁の種だが、花・栄養器官ともにやや大きく、*P. juncea* が自花受粉を常態としているのに対し、通常の他花受粉向きの花を有している。

□盛元俊太郎・安田 健(編)：江戸時代中期における 諸藩の 農作物一享保・元文諸国産物帳から— 272pp. 1986. 自費出版(横浜市戸塚区公田町454-14 安田健). ¥1,000. 徳川幕府は1735年から1739年にかけて諸国の天産物の一斉調査をおこなった。このような組織的調査は日本はおろか世界的にも稀な事業であったのだが、幕府に集められた諸国からの報告はまとめられることなく、今ではその所在もわからない。しかしながら、提出された報告の控えは諸藩に保存され、現在でも目にすることができるものも少なくない。本書は全国に散在するこの産物帳の控えを丹念に発掘し、農作物の部分を抜粋、とりまとめたもので、大日本農会誌「農業」に72回にわたって発表されたものの集成である。内容はⅠまえがき、Ⅱ諸国「産物帳」(1735年)に記載された農作物の種類とその品種、Ⅲ参考資料、Ⅳ集計と考察、より成る。Ⅱは諸国の「産物帳」の記述を陸奥南部領から日向諸縣領まで42ヶ国を列記したもので227頁にわたり、本書の主要部をなす。Ⅲは「産物帳」控えが発見されていない地域をおぎなうため、松前、越後、伊豆七島、淡路の農作物について同時代の記録を収録してある。Ⅳはこれら諸記録から作物の種類数を国別に集計比較した一覧表で、当時の農業文化を知り、今日の状況と比較するうえでたいへん役立つものである。現代のように農作物の品種が画一化されていない時代なので、全国における品種数は膨大なものだったろう。作物の総種類数は佐渡が203種類で最も多いというのはおもしろい。また、いも類ではさといもの品種が多いのに対して、さつまいもは渡来して間もないために、西日本にはあるが東日本ではやっと普及しはじめたところであることがわかる。一方、じゃがいもの記録が全くないのはたいへん奇妙に思える。利用のしかたによって多くの情報をとりだせる労作である。こういう資料が自費出版というのは、出版界に目のある人がいないのかと嘆かわしい。(金井弘夫)